

# 2019年度 審判員の目標



## 1 『審判員の心得 10箇条』

→ コーチ・レフェリーシンポジウム2018 in 熊本

日本ハンドボール協会指導委員会 <https://youtu.be/HGXgn1k5Tzw>

## 2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

→ 昨年度より継続

→ 強化・育成共通の理解





2019年度 審判員の目標

コンタクトプレーを  
正しく見極める

～モダンハンドボールの考え方から～



# モダンハンドボール



近年のハンドボール競技の特徴  
⇒ 激しいボディークンタクト  
スピーディーなゲーム展開

リオ・オリンピック  
以降、さらに強調

**「ハードプレーとラフプレーの見極め」**

<2019、2020、そしてその先・・・>  
われわれレフェリーが、理解し、整理し、  
解決していかなければならない課題



# コンタクトプレーを正しく 見極めるために



## 「ハードプレーとラフプレーの見極め」

競技規則第8条「相手に対する動作」

⇒ 攻撃側、防御側の**双方**にあてはまる

<身体接触の際>

- ◆ 両者の**位置関係**
- ◆ 違反を受けたプレーヤーへの**影響**

# 競技規則 8 : 1 (a) ~ (c)



次の行為は**許される**

- (a) 他のプレイヤーの手からボールを取るために、開いた片手を使うこと
- (b) 相手の身体に接触し、そのまま相手の動きに合わせてついていくために、**曲げた腕**を使うこと
- (c) 位置取りをめぐり、相手をブロックするために**胴体**を使うこと

# ハードプレーとラフプレーの見極め (防御プレイヤーの位置と防御行為)

防御行為の **ハードプレー** とは・・・

- ◆ 攻撃側プレイヤーの正面
- ◆ 競技規則 8 : 1 の状況 (例えば、曲げた腕)
- ◆ 相手の安全面を守る



接触の度合いが強かったとしても  
**ハードプレー** として認める



# 良いディフェンスの例 (正面・曲げた腕・ボールに対してプレーする)

DFプレーヤーは、**曲げた腕**を使いながら、相手正面に入り、ついていっている。



# オフENSシブファールの例 (先に位置を取る・正面)

DFはボールを持ったOFプレイヤーに対して、**先に正面に位置を取っている。**

レフェリーの判定は正しい。

**オフENSシブファール。**

**相手チームのフリースロー。**



# 正しいディフェンスの例

DFは相手に対して、正面からのコンタクトを試みている。決して罰則を適用してはならない。

ピボットも明らかな得点チャンスを得ているわけでもないので、OFチームの  
**フリースロー**。

それ以外の判定はない。



# ハードプレーとラフプレーの見極め (レフェリングの際の**ポイント**)

## 【 **大切な判断基準（事実判定の根拠）** 】

- ① **ボディークントロール**は？
- ② プレーヤーへの**影響**は？
- ③ **ボールに対するプレー**？

# ① ボディークントロール

⇒ シュートを打ち切ったかどうか

もしも、ボディークントロールを  
失わずにプレーできているならば・・・

◆ ゲームの流れを重視

◆ 安易に競技を中断しない

7m スローの判定や  
罰則の適用 などにより

モダンハンドボール（ハンドボールの面白さ）を表現する



## ② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準（8：3）

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**
  - ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした **身体の部位**
  - ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の **激しさの程度**
  - ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の**影響**



# DFのコンタクトによる シューターへの影響を見極める

シューターは、最終的にDFのコンタクトなしにシュートを打ち切っている。

**ゴールイン。**

違反を受けたプレイヤーへの影響もないため、罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



# 視点

## ①DFの位置 ②OFの影響 ③シュートへの影響

DFは積極的に前へ動きながら  
コンタクトを試みている。

決してオフエンシブファール  
にしては**いけない**。

違反を受けたプレイヤーへの  
影響もないため、罰則は**不要**。  
**ゴールイン**。

シュートを外したとしても、  
そのまま**継続**。



# ピボットプレーの場合

ピボットがボールをキャッチした時、DFはピボットへのコンタクトを止めた。

そのため、ピボットは、ボディーコントロールを失わずにシュートを打ち切った。

**ゴールイン**。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



### ③ ボールに対するプレー



## 防御プレイヤーの位置と防御行為

- ◆ ボールを対象としていない
  - ◆ 不利な位置から接触を試みた
- ⇒ **ラフプレー** として判定

横から

後ろから

(競技規則 8 : 2、 8 : 3)



# DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

ボディーコントロールを失わずに、シュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

# DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

シューターへのコンタクトの影響はなく、ボディコントロールを失わずにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

# 即座に2分間退場とすべき違反行為 (8:4)

- a) 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反
- b) 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと
- c) 頭や喉、首に対する違反
- d) 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと
- e) 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとすること  
(例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。8:5aを参照)
- f) 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること



**開始直後でも、即座に2分間退場もありうる！**

# 即座に2分間退場とすべき違反行為

**試合開始直後**であっても、後方からのプッシングには、**即座に2分間退場**を判定しなければならない（警告では不十分）。

シューターは明らかな得点チャンスを妨害されたため、**7mスロー**を判定する必要がある。



# 即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続けているため、**即座に2分間退場**とする。



# 即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続け、さらに引き倒したため、レフェリーは**即座に2分間退場**とすべきである。



# コンタクトプレーを正しく 見極めるために



## 「ハードプレーとラフプレーの見極め」

ハンドボール ⇒ 戦いの競技  
コンタクトの発生は必然的

<2019、2020、そしてその先・・・>

世界と戦うために、  
ハードなコンタクトプレーが不可欠

# これからのレフェリーの役割



## ◆世界の流れ

⇒ スピーディーなゲーム展開

## ◆競技規則 8 : 3 ⇒ 判断基準

・・・ 影響を見極めて判定

## ◆プレーを正確に観察できる位置取り

# これからのレフェリーの役割 ～前半のうちに基準（許容範囲）を示す～

前半のうちに

インフォメーション

ボディランゲージ

段階的罰則

基準（許容範囲）  
を伝えていく

⇒ 後半に罰則を適用する必要がないようにする  
（もちろん**罰則を適用する準備**は必要）



# これからのレフェリーの役割 ～一試合を通して～



60分の中で

起きた現象  
プレーの質

良いプレーを保証し  
悪いプレーを排除する

違反を受けたプレイヤーへの影響を見極め  
罰則を適用するかどうかの判断をする

# レフェリーの使命



チーム・プレーヤーは日々、トレーニングしている。  
レフェリーの使命は

**トレーニングの成果を存分に発揮させる**

ことである。この使命を果たすために、身体的、精神的、競技規則の理解、映像分析、 etc. 大会やゲームに臨むため、そして、大会期間中、ゲーム直前…日々「準備」しなければならない。

# ハンドボールの発展のために 皆でトレーニングを積む

Team JAPAN として2019年 2020年



ハードプレーとラフプレーを整理し  
コンタクトプレーを正しく見極める



## 「パワーハンドボール」

追求と発展を共に求めていく

